



台風の性質を知ろう

台風は大きな低気圧の一種で、中心の気圧はその周りに比べて極端に低くなっています。

このため、周りの空気は、気圧の低い台風の中心に向かって勢いよく流れ込む——。これが台風の強い風なのです。また、一般に台風の進行方向の右側と左側では、風の強さが違います。これは、台風が時計と逆まわりの大きな空気のうずになって

いるからです。台風の右側は台風自身のうず巻く流れと台風を進める流れが重なって強い風が吹きます。

一方、台風の左側は、うずの流れと台風自身の進む方向が逆になるので右側と比べると一般に風速は弱くなります。北上する台風が、私たちの住んでいる場所の西側を通過するときは、東側を通るときに比べて強い風が予想されますので注意しましょう。台風は、なぜ大雨を降らすのでしょうか。それは、台風が赤道付近の海上で発生した後も、絶えず南

夏、いよいよ本番。海に山にレクリエーションを楽しむには絶好の季節です。でも同時に台風シーズンにも入ります。強い風、激しい雨……台風は私たちの生活に大きな災害をもたらします。できることなら台風とは顔を合わせたくないと思ってはみても相手は「天災」。私たちは台風について勉強しておく必要があるようです。

の暖かい海面から大量の水分の補給を受けながら北上を続けるからです。

台風が日本の国土にもたらす雨の量は、ふつう100億㌧から200億㌧。

多いもので300億㌧から600億㌧といわれています。我が国で1年間に消費される水の量は、生活用水110億㌧、工業用水は160億㌧ですからこれに比べると台風がどれだけ多くの雨を降らせるかがわかります。

こうした雨は貴重な水資源となる一面、洪水、土砂災害なども引き起こすことはご存じのとおりです。

できます

片倉ダムが機能を發揮

台風6号の接近で、6月30日から7月1日早朝にかけて本市も強い雨に見舞われました。

市は、1日午前1時45分に災害対策本部を設置し、台風に備えました。

特に、1日午前2時から3時までの1時間に市街地で30㍉の豪雨を記録しましたが、幸いに大きな被害は出ませんでした。豪雨のたびに溢水していた吉原市街地を流れる和田川も溢水被害は出ず、地域住民も胸をなでおろしました。これは、市街地の治水対策として、ことし3月に完成した片倉雨水貯留ダムや伝法の貯留池

が機能を発揮したものと思われます。今後も、豪雨に対して、かなりの洪水調整機能を果たすものと期待されます。



△ことし3月に完成した片倉雨水貯留ダム

台風災害を防ぐためには

- ・家の内外の備えを十分に
- ・台風情報は広報無線を初めラジオ、テレビで最新の情報を
- ・非常用品はすぐに持ち出せるよ

うにふだんから準備を
・避難場所は日頃から家族で確認
し合い、避難命令が出たら指示
に従い、勝手な行動をとらない。



私たちの生活は、古くから河川と密着しており、飲料水、工業用水、かんがい用水あるいは発電用水等、人間生活を考え上で複雑多岐にわたつて深い関係を持つものです。この母なる河川を汚することは、私たちの生活 자체を汚すことであり、その美しい自然環境を維持し、整備することが健康的な市民生活のため



ふるさとの川を大切にし、常に美しく保つために、「川をきれいにする、汚さない」ということを心がけ、清潔で住みよい社会をつくりましょう。

みんなの川を大切に

七・八月は河川愛護月間

の条件であるといえます。

市は現在、各町内会、富士市をきれいにする市民運動推進連絡協議会などの協力を得て、「第五回みんなで川をきれいにする運動」を開催中です。

運動期間中、市内の主要河川の清掃、河川パトロール、鯉の放流等各種行事を通して河川愛護思想を啓蒙しています。